

海外安全対策情報
(2017年10月～12月)

在セブ領事事務所

1 社会・治安情勢

(1) セブ州はマニラ首都圏に次ぐフィリピン第二の大都市圏であり、テロのターゲットとして大型ショッピングモールや外交団施設、外国資本の施設が標的とされる可能性は依然排除できない。

2017年4月中旬にボホール州イナバंगाにおいてアブ・サヤフ・グループ(ASG)のメンバーと治安部隊とが衝突する事件が発生しており、ビサヤ地方(セブ州を含む)におけるテロの脅威は依然と排除されておらず、軍・警察の治安当局は嚴重な警戒態勢を敷いている。

(2) セブ州は世界的に著名な観光地を擁しており、2016年においては年間36.9万人(2017年1～8月、246万人)の邦人がセブを訪れている。また下記のとおり邦人旅行者及び在留邦人が巻き込まれた犯罪被害が発生していることから、夜間の単独行動や人通りの少ない通りの一人歩きは避けるべきである。またレストラン等飲食店における置き引き被害が多発していることから、手荷物は身につけるか常に目視確認を行う等注意を怠らないことが重要である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) フィリピン国家警察から入手したセブ州の犯罪統計によれば、2017年10月～12月における犯罪発生件数は以下のとおり。

(ア) 殺人(含む未遂) 87件(前期比: 11.5%減)

(うちセブ都市圏(セブ, マンダウェイ, ラプラプの3市)で31件(前期比: 6.5%減))

(イ) 傷害 559件(前期比: 17.9%増)

(うちセブ都市圏の3市で288件(前期比: 29.9%増))

(ウ) 強姦 99件(前期比: 4%増)

(うちセブ都市圏の3市で25件(前期比: 12%増))

(エ) 強盗 285件(前期比: 19.7%減)

(うちセブ都市圏の3市で137件(前期比: 16%減))

(オ) 窃盗 645件(前期比: 16%減)

(うちセブ都市圏の3市で420件(前期比: 19%減))

(2017年10月～12月における犯罪件数総数は8,703件, 前期比よ

り 23. 2%減, 前年同期比で 19%減となっている)

(2) 邦人被害事案

(ア) 10月下旬, セブ市内のホテルにおいて邦人旅行者(男性)が知人と偶然プールサイドで出会い, 昔話をしている間に席に置いてあった鞆, パソコンを窃取された。

(イ) 10月下旬, ラプラブ市内のホテル内において邦人旅行者(男性)が食事をしていたところ, 隣席に置いてあった鞆を窃取された。

(ウ) 10月下旬, セブ市内のホテル内において, 邦人旅行者(女性)が部屋に置いてあった鞆の中からインナーバッグを窃取された。

(エ) 11月上旬, セブ市内のバーにおいて在留邦人(男性)が友人と共に飲食をしていたところ, 椅子の後部に掛けてあった鞆を窃取された。

(オ) 11月中旬, ネグロス・オリエンタル州ドマゲッティ市の路上において在留邦人(女性)が帰宅途中, 何者かにより, 背中等20数カ所を刺される事件が発生した。凶器はボールペンの先端の様な物とみられ, 被害者は軽傷。現在も警察が捜査中。

(カ) 11月中旬, セブ市内のモールにおいて邦人旅行者(女性)が買い物中, バッグの中のインナーバッグを窃取された。

(キ) 11月下旬, セブ州バランバン町において, 在留邦人(男性)が自宅で就寝中, 何者かが台所より侵入し, 現金, 電子機器を窃取された。

(ク) 12月上旬, 比人女性(本邦在住)とともにツアー旅行で来比した邦人旅行者(男性)が夕食後, ホテルに戻り就寝。早朝起床したところ一緒に泊まっていた比人女性の姿が無く, セーフティボックスに入れてあった現金を窃取された。

(ケ) 12月中旬, セブ市内において邦人留学生(女性)が食事後, タクシーにて帰宅途次, 自宅と違う地域に連れて行かれてナイフで脅され貴重品を窃取された。

(コ) また, 本期間中, 邦人が運転中に起こした車両交通事故が5件発生している。

(3) 邦人以外の被害

12月中旬, セブ市において市内在住の米国人(男性)がインターネットで知り合った比人女性を家政婦として雇用したところ, 労働初日にキャビネットに保管してあった現金を窃取された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は報告されていない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

事件の発生は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

当地に所在する日系企業・個人に対する恐喝、脅迫等の問題は報告されていない。

(了)